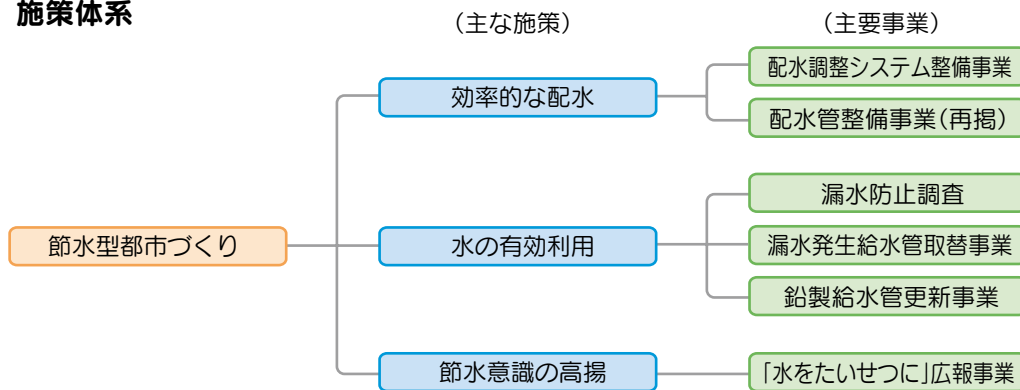


## 施策目標2 節水型都市づくり

### 1 基本的方向

- 限りある水資源を有効に活用するため、配水調整システムによる効率的な水運用管理を行うとともに、効果的な漏水防止対策に取り組みます。
- 市民のみならず事業者の方と市が一体となって、節水型都市づくりを進めていくため、「水をたいせつに使う」節水への理解と協力を引き続き呼びかけていきます。

### 2 施策体系



### 3 主な施策

#### (1) 効率的な配水

水源状況に応じた効率的な配水を行うため、配水調整システムにより浄水場からじゃ口までの市内全域の水の流れや水圧を水管理センターにおいて、集中的に管理します。

また、効率的な配水調整を行うために、老朽化した配水管の更新を計画的に行っていきます。

#### 《主要事業》

##### ① 配水調整システム整備事業

配水管路の新設に伴う遠方監視制御装置の新設や老朽化に伴う更新を計画的に行っていきます。

また、このシステムを集中管理する「水管理センター」について、耐震性の向上を図るため、建設中の下水道の博多駅北ポンプ場との合築庁舎に移転します。

##### ② 配水管整備事業（再掲）

#### (2) 水の有効利用

給・配水管の老朽化などにより発生する漏水を早期に発見するため、計画的に漏水調査を行うとともに、24時間体制により、速やかに漏水箇所の修理を行います。また、漏水を未然に防止するため、老朽化した給水管の取替えを計画的に行っていきます。

#### 《主要事業》

##### ① 漏水防止調査

市内全域の公道部の給・配水管について、漏水調査を実施していくとともに、漏水を発見した場合には、速やかに修理を行います。

② 漏水発生給水管取替事業

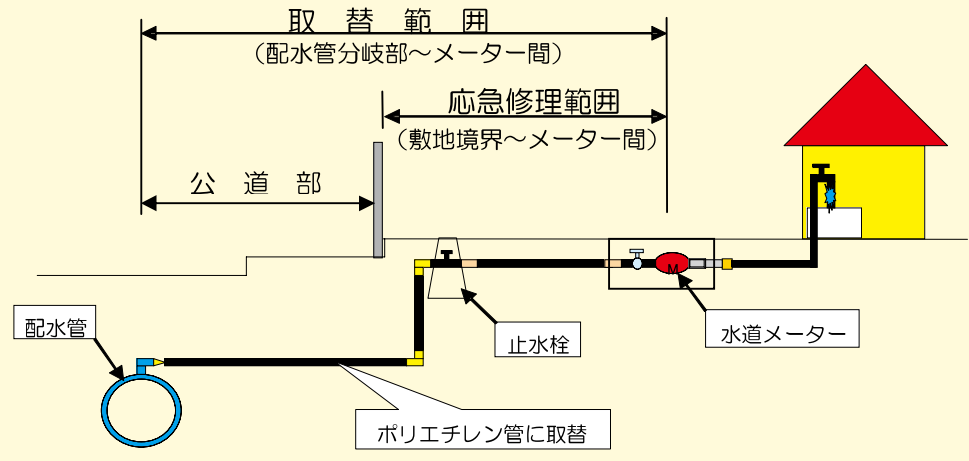
老朽化により自然漏水が発生した給水管については、漏水防止による水の有効利用の観点から、所有者や使用者からの依頼により、敷地境界から水道メーターまでの応急修理を行います。

また、老朽化が著しい給水管については、所有者からの申請に基づき、配水管分岐部から水道メーターまでの取替工事を水道局負担で行います。

【修理・取替計画】

年間修理件数	2,000件
年間取替件数	500件
計	2,500件

【概略図】



③ 鉛製給水管更新事業

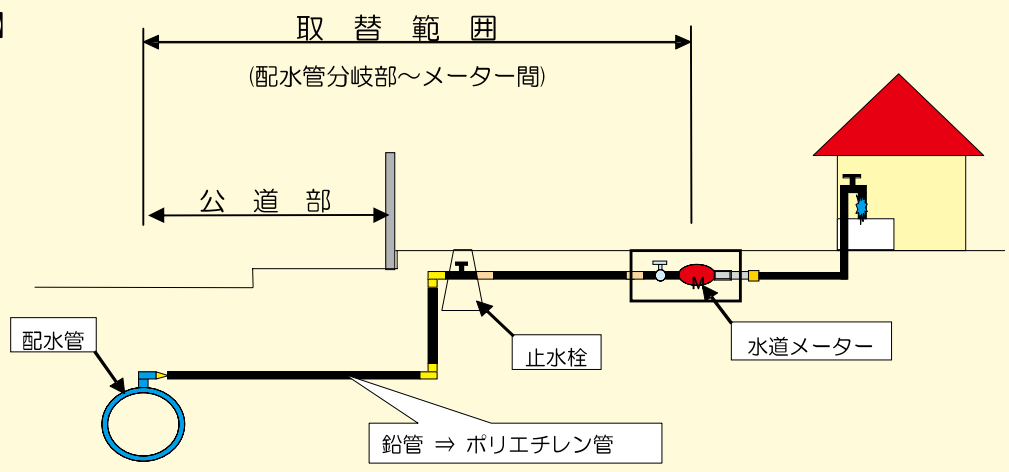
昭和53年以前に使用されていた鉛製給水管は、現在使用されているポリエチレン管などと比べ頻りに漏水が起きていることから、平成36年度を目途に公道下の鉛製給水管を解消するよう、重点的に更新を行っていきます。

特に、ガス管と交差する約11,000件については、ガス管の損傷事故などの二次災害を防止する観点から、平成28年度を目途に更新を行っていきます。

【鉛製給水管更新計画】

区分	現状 (平成19年度)	平成24年度	平成30年度
鉛製給水管 残存件数(公道部)	33,100件	21,900件	9,100件

【概略図】



**【参考：雑用水道の導入など】**

節水型都市づくりの一環として、一度使った水を再処理し、水洗トイレ用水などに活用する雑用水道の利用促進を道路下水道局と連携しながら進めるとともに、節水機器の普及を図っていきます。

**(3) 節水意識の高揚**

水を大切に使う心がけは、「市民ダム」となり貴重な水資源ともなっていることから、引き続き水をたいせつに使っていただくよう、効果的な広報活動を行っていきます。

また、節水型便器をはじめとする節水機器の使用奨励や上手な節水方法についての情報提供に努めていきます。

**《主要事業》**

**①「水をたいせつに」広報事業**

2度にわたる大きな渇水の経験を風化させることなく、水を大切に使う心がけをもち続けていただけるよう、水を多く使う6月から8月まで「水をたいせつにキャンペーン」を展開します。

また、広報紙の配布、小学生社会科副読本「水とわたしたち」の発行及び、小学生や一般市民を対象とした施設見学会の実施など効果的な広報活動を行っていくとともに、節水意識が比較的低い若年層へのPR活動を充実させていきます。

**4 成果指標**

指標名	指標の意味	現状値 (H19年度)	中間値 (H24年度)	目標値 (H30年度)
市民一人当たりの水使用量※ (ℓ/人/日)	給水区域内の一人一日当たりの水使用量です。	284	310 (上限値)	310 (上限値)
漏水率(%)	年間配水量に対する年間漏水量の割合を示すものです。	2.2	2.1	2.0
節水意識(%)	お客さまの節水に対する意識を示すものです。	87.4	90	90

※ 「福岡市新・基本計画」では、水の安定供給の確保のため使用量が310ℓを上回らないことを節水の目標としています。過去の実績では、渇水が発生すると一時的に減少し、その後徐々に増加する傾向にあります。このため、中間値及び目標値には、平成6年の大渇水以前の水使用量等を踏まえ、310ℓを上限値として設定しています。